

科研費・災害復興のための哲学構築シンポジウム
「あのときの、あれからの福島」

東日本大震災六年目を迎えて、改めて問題を再考し、「災害復興のための哲学構築」という私どもの科研費主題の進展を図る、という趣旨で、シンポジウム「あのときの、あれからの福島」を開催いたします。いまなお、さまざまな点で、福島の現状は、福島県外で誤解されておりますので、被災地復興という視点から、東京にてこうした集会を行う必要性が依然としてあると理解しています。実際、震災後も、熊本地震、鳥取地震と続き、いつまた、日本のどこにおいても、災害発生可能性があり、放射線が関わる災害の可能性も当然あります。そうした状況を踏まえ、近年最大の災害である東日本大震災そして福島第一原発事故について、もう一度振り返り、現在進行形の被害や誤解の解決、そして将来に向けての教訓を得ること、に関して、現地からの声も含めて、学術的かつ実効的な形で、方向性を模索してまいりたいと思っています。以下の要領です。

2017年3月18日(土)午後1時より
東京大学文学部法文二号館一番大教室にて
各提題30分、各コメント15分、その後ダイアログ

導入

1. 相川祐里奈・『避難弱者』の著者
「あの時福島原発付近の介護施設で何があったのか」
コメンテータ 桜井勝延・南相馬市長
「避難を余儀なくされた介護施設」
2. 安東量子・「福島エートス」の主催者
「福島で暮らす/暮らせる、暮らさない/暮らせないということ」
コメンテータ 早野龍五・東京大学理学部教授
「測って、伝えて、袋小路。-どこで掛け違ったのだろう -」
3. 眞並恭介・『牛と土』の著者、
「被災動物は何を語るか ～原発事故後の牛、犬、猫たち～」
コメンテータ 一ノ瀬正樹・東京大学文学部教授
「被災動物、そして動物倫理の暗闇」
4. 後藤あや・福島県立医科大学教授
「震災後の母子保健：エビデンスをつくり、伝え、使う重なり」
コメンテータ 高村昇・長崎大学原爆後障害医療研究所教授
「クライシスコミュニケーション～リスクコミュニケーションでの体験から」

ダイアログ

[入場自由・無料]

東京大学大学院人文社会系研究科・哲学研究室
オーガナイザ・一ノ瀬正樹
東京都文京区本郷7-3-1
Tel: 03-5841-3739
Email: ichinose@l.u-tokyo.ac.jp